

| | | | |
|----------|--|-----------|---|
| <p>1</p> | <p>『蜘蛛の糸・杜子春』 芥川 龍之介 新潮社 128P</p> | <p>小説</p> | <p>「蜘蛛の糸」 悪人だが、1度だけ小さなクモの命を助けたことのあるカンダタ。地獄の池に落ちた彼に、お釈迦様は救いのチャンスを与えるが…。</p> <p>「杜子春」 元は金持ちの息子だった杜氏^{とししゅん}春は、浪費癖のため財産を使い果たしてしまう。そんな彼の前に不思議な老人が現れた。</p> |
| <p>2</p> | <p>『きみが見つける物語・放課後編』 浅田 次郎 (ほか) 角川書店 214P</p> | <p>小説</p> | <p>卒業研究と題してサボテンの超能力を試す実験が行われている教室。大人たちが心配する中、子どもたちの真の目的は別にあった…。</p> <p>(宮部みゆき「サボテンの花」) 宮部みゆきや石田衣良など、人気作家5人による、謎や不思議が隠された“放課後”のショートストーリー。</p> |
| <p>3</p> | <p>『The manzai』 あさの あつこ 角川書店 197P</p> | <p>小説</p> | <p>転校先の学校で、ぼくは同級生の秋本に呼び出される。</p> <p>「俺と一緒に漫才コンビを組もう」 漫才「ロミオとジュリエット」は文化祭の出し物に決まり、クラス一体となって盛り上がっていく。</p> |
| <p>4</p> | <p>『詩のころろを読む』 茨木 のり子 岩波書店 220P</p> | <p>詩歌</p> | <p>詩人でもある作者が選んだ詩を紹介。選んだ詩について、作者がいていないに魅力を語ってくれる。「詩」というものを少しでも理解したいときに。</p> |
| <p>5</p> | <p>『兄貴』 今江 祥智 新潮社 279P</p> | <p>小説</p> | <p>作者の自伝的連作の第二部。激動の戦時中にたくましく生きる母子3人。後半は、幼かった「兄ちゃん」が「兄貴」へと成長するまでを描く。</p> |
| <p>6</p> | <p>『優しさごっこ』 今江 祥智 新潮社 393P</p> | <p>小説</p> | <p>かあさんがいなくなってから、とうさんとあかりの二人暮らしが始まった。父と娘は慣れない家事に悪戦苦闘しながら、静かに、緩やかに、お互いをいたわりあいながら成長していく。その後の2人は、続編「冬の光」で。</p> |
| <p>7</p> | <p>『精霊の守り人』 上橋 菜穂子 新潮社 360P</p> | <p>小説</p> | <p>女用心棒バルサは、新ヨゴ王国の幼い皇子・チャグムの用心棒を任される。100年に一度卵を産む精霊の秘密とは何か？バルサは帝の刺客や異物の魔物からチャグムを守るため戦い続ける。</p> |



8

『青春を山に賭けて』

植村 直己
文藝春秋 254P

個人伝記

家の手伝いは怠け、学校ではイタズラばかり…
そんな一人の少年が、大学へ進んで美しい山々に出会った。無一文で日本を脱出し、ついに五大陸最高峰すべての登頂に成功！
ケタはずれの世界放浪記。



9

『博士の愛した数式』

小川 洋子
新潮社 291P

小説

80分しか記憶がもたない天才数学者。数字が彼の言葉だった。その家で働く家政婦、そして家政婦の10歳の子ども。3人の静かであたたかい愛の物語。

10

『ボクの音楽武者修行』

小澤 征爾
新潮社 216P

音楽

西洋音楽をやりたい一心で、著者はスクーターでヨーロッパ人旅に向かう。20代にして「世界のオザワ」と言わしめた国際的指揮者の、みずみずしくユーモアあふれる自伝的エッセイ。

11

『伊豆の踊り子・
十六歳の日記』

川端 康成
講談社 194P

小説

「伊豆の踊り子」
伊豆湯ヶ島を舞台にした、美しい踊り子と旧制高校生の恋物語。映画化もされている。



「十六歳の日記」
主人公「私」は数え歳16歳=満年齢14歳の中学生。学校から戻った「私」に待っているのは、75歳の祖父の世話だった。後のノーベル文学賞作家の描写力の一端を表す作品。



12

『やれば、できる』

小柴 昌俊
新潮社 201P

個人伝記

小児マヒ、夢の挫折、大学の成績はビリ。ノーベル物理学賞受賞者のすごい人生と、若い人たちへのメッセージ。浜松ホトニクスについても触れられている。

13

『きみの友だち』

重松 清
新潮社 436P

小説

交通事故を友だちのせいにし、左足の自由とともに友だちも失った恵美ちゃん。学校の人気者ブンちゃんは、優秀な転校生モト君のことが面白くない。優等生や八方美人、いじめっこ…それぞれの物語がちりばめられた、「友だち」の本当の意味をさがす連作長編。



14

『ビルマの豎琴』

竹山 道雄
新潮社 207P

小説

主人公は歌う部隊の豎琴の名手。彼は死者の霊を弔うため、日本に帰ることを拒み、僧となってビルマに残ることを決心する。

15

『二十四の瞳』

壺井 栄
新潮社 239P

小説

昭和のはじめ、小豆島の分教場に赴任してきた若い女性教師と、12人の子どもたちとの愛情あふれる物語。やがてはじまった戦争の渦に巻き込まれながらも、みんなは懸命に生きていく。

16

『この湖にボート禁止』

ジェフリー・トリーズ
福音館書店 348P

小説

湖のそばの山荘に引っ越してきたビルは、妹と湖の小島に漕ぎ出した。ところが待っていたのは島の持ち主からの「湖はボート禁止」の一言。島に隠されているものは？そしてついに埋もれた千年前の宝物を発見する。

17

『ハラスのいた日々』

中野 孝次
文藝春秋 249P

随筆



かけがえのない時を一緒に過ごした、犬のハラスは、著者にとって、大切な家族の一員だった。今も忘れられない犬と共に生きた13年の記録。

18

『西の魔女が死んだ』

梨木 香歩
新潮社 226P

小説

「魔女」とは、まいと母がこっそり付けた祖母のあだ名。中学入学後、どうしても学校へ足が向かなくなってしまうまいは、祖母のもとで「魔女修行」をすることにした。

19

『太陽の子』

灰谷 健次郎
角川書店 430P

小説

主人公ふうちゃんは、沖縄出身の両親をもつ神戸生まれの女の子。ふうちゃんの家は神戸の下町で沖縄料理の店を営んでいる。物語の底辺には、戦争と沖縄の悲しい歴史が…。

20

『トムは真夜中の庭で』

フィリパ・ピアス
岩波書店 358P

英米文学

ある夏休み、遠い町のおばの家にあずけられていたトムは、真夜中、古い大時計が13時をうつのを聞いた。すると、昼間はなかったはずの庭園があらわれた。トムはその庭園で不思議な少女ハティに出会う。

21

『アンネの日記』

アンネ・フランク
文藝春秋 475P

オランダ文学

ナチ占領下のオランダでの異常な環境の中、13歳から15歳の思春期を過ごした少女の日記。全世界で読み継がれている作品。



22

『老人と海』

ヘミングウェイ
新潮社 134P

英米文学

小舟に乗りたったひとりで漁にでかけた老漁師。残りわずかなエサに、巨大なカジキマグロがかかった！4日間に渡る死闘ののち、ついに老漁師が勝利するが…。

23

『ブランコのむこうで』

星 新一
新潮社 213P

小説

もしも他人の夢を見ることができたなら…？ぼくは学校の帰り道に、自分そっくりの男の子に導かれるまま、知らない家に入ってしまう。そこはなんと夢の国につながっていた。少年の不思議な冒険を描く長編ファンタジー。

24 『ポッコちゃん』
星 新一
新潮社 315P



小説

ある村に突然現れた、底なしの穴。人間たちはこれ幸いとばかりに、都会のゴミや汚物など、ありとあらゆるものを捨てていった。「穴」は現代社会の救いとなるのか？（おーい、でてこーい）
星新一のショートショートの世界の入口。
文庫サイズの中に50の短編が収められている。

25 『少女パレアナ』
エレナ・ポーター
角川書店 274P

英米文学

両親を亡くし、気難しいおばさんの家にひきとられることになったパレアナ。パレアナがはじめた、つらいときも喜びを見つけるといふゲームが周りの人達のかたくなな心を動かしていく。

26 『注文の多い料理店』
宮沢 賢治
新潮社 358P

童話

狼の途中、お腹を空かせた若者2人が入った山奥の料理店。そこは、お客に対する注文が多い店。指示どおりに店の奥へと進んでいく2人を待ち構えていたものは…？

27 『カラフル』
森 絵都
文藝春秋 259P

小説

死んでしまった“ぼく”の魂は、自殺した中学生・小林真の体を借りて、もう一度生きるチャンスを与えられた。前世で犯した自分の罪に気付くまでの修行期間だという。そこで見えてきたのは、真が気付かなかった周囲の人々の思いだった。

28 『山椒大夫・高瀬舟』
森 鷗外
岩波書店 160P



小説

「山椒大夫」
おなじみ安寿と厨子王の物語。伝説に基づいた文豪の解釈。
「高瀬舟」
この場合は京都で罪人が遠島される時に高瀬川を下る船のこと。弟殺しの罪で送られる罪人と護送役人の心の葛藤。安楽死の問題にも踏み込む。

29 『赤毛のアン』
モンゴメリ
新潮社 529P

英米文学

孤児院からやってきたアンは、赤毛でそばかすだらけ、空想好きな女の子。アンが学校や家庭で繰り広げる楽しく美しい日々は、100年以上たった今も世界中で愛されている。

30 『ボクは勉強ができない』
山田 詠美
筑摩書房 249P

小説

勉強はできないが、女性にはよくもてる17歳の高校生、秀美君。「勉強よりも素敵で大切なことがいっぱいあると思うんだ。」

31 『夏の庭〈The Friends〉』
湯本 香樹実
新潮社 221P

小説

「人の死」をみたくなった「ぼくら」。好奇心からはじまった老人と少年たちとの交流。少年たちの忘れがたい夏の物語。

32

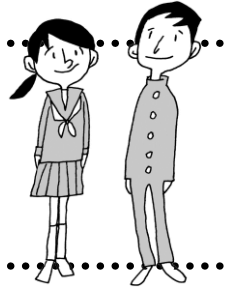
『君たちはどう生きるか』

吉野 源三郎

岩波書店 339P

人生訓

主人公は中学生。学校での出来事、友人との関わり、人の生き方など等身大の自分の姿を感じて。



33

『はるかな国の兄弟』

アスリッド・リンドグレーン

岩波書店 355P

小説

やさしくて強い兄ヨナタンと、ひたすら兄をしたらうカール。はるかな国ナンギャラにやってきた二人は、怪物カトラをあやつり村人を苦しめている黒の騎士テンギルに立ち向かっていった。